

メキシコペソの役割と特徴

新興国の代表としてはBRICs がある。ブラジル、ロシア、インド、中国だ。それにsの南アフリカを加えてもいい。だが新興国通貨の代表となると、それらの国の通貨ではない。メキシコのペソになる。

外為市場ではメキシコのペソはカナダドルに次いで世界で七番目に取引量の多い通貨だ。新興国通貨の中ではトップだ。ちなみにBRICsの通貨では人民元、ルーブル、ランド、リアル、ルピーの順になる。

つまりメキシコのペソは新興国市場の中では最も流動性の高い通貨なのだ。そのため他の新興国通貨のヘッジ取引にも使われることがある。代替通貨としてだ。何らかの事情で当該通貨が取引できない時、代替通貨でヘッジしておいて、取引が可能になった時にヘッジ取引を解消する。

欧州通貨でのユーロ(かつてはマルク)、アジア通貨での円などもこうした使われ方をすることがある。通貨危機などで流動性に問題が生じたり、営業時間帯の関係で当該通貨の取引ができない時などだ。

新興国通貨はFRBの量的緩和(QE)の縮小を巡って大きく変動した。5月下旬にその可能性をバーナンキが示唆してから多くの新興国通貨が大きく売られた。あれほど通貨安を望んでいたブラジルでさえ、リアル安を食い止めるための措置を講じなければならなくなったほどだ。そしてFRBのQE縮小の可能性が薄くなると逆に新興国通貨は買われた。

特に経常収支の赤字額が大きい国の通貨の下落率は高い傾向にあった。メキシコの経常収支も赤字だが、対GDP比では1%強で大きなものではない。そのためメキシカンペソの下落率はリアルほどではないが、大筋において他の新興国通貨と似た動きを見せたのは、代替通貨としての売りの他に、利下げの影響があった。利下げが続き、政策金利は10月に史上最低の3.5%になった。

今後のペソの動向だが、利下げは今回で打ち止めの見方が強い。エネルギー分野での改革を促進して海外投資を呼び込むとの大統領の意欲は強い。彼は国内よりも海外の投資家に対する印象の方がいい。

問題はFRBの量的緩和縮小だが、これも米国景気が改善した結果ならば米国の輸入が増える。米国への輸出比率の高いメキシコにとっては追い風になる。米国のQE縮小で資本流出は避けられないが、経常収支の改善の見通しがあれば、それも限定されるだろう。

いずれにせよメキシカンペソは人民元を別にすれば、新興国通貨の中では最も変動率が穏やかで堅調な通貨の一つなのだろう。

次回更新は12月11日になります。